

韓国釜山市におけるバリアフリーの現状調査

李 成林*・後藤恵之輔*

Investigation of the Barrier-Free Survey Pusan in South Korea
by

Chenglin LI , Keinosuke GOTOH

Now, South Korean is one of few economic giants, in Asia. In Japan, more and more elder people and a disabled person take a role in their society and barrier-free-ization of the infrastructure has made much progress. On the other hand, in South Korean, affecting by national quality and religion, it is not a big social problem because they respect the elder people in each area including each home. However, in order for many elder people and disabled persons to lead ordinary social life in the future, it will be necessary to promote barrier-free. The filed survey was performed in order to understand the present condition of barrier-free-ization of Pusan, South Korean. Its result is that various great signs make the weak-eyesight persons convenient; on the other hand, it is found that the forms of the hand-rails of the communal facilities are different, and we think the problem needs improving.

1. はじめに

第二次世界大戦後、韓国は経済発展を続けており、アジアの中では有数の経済大国である。また今後も、経済の発展が進むと考えられる韓国では、近年、先進国が深刻な問題として取り上げられる高齢者問題にも直面していくと考えられる。

図1に韓国の高齢化率の推移を示す。ここでは、他国との比較として日本の高齢化率の推移も併せて示す。この図より、2000年における日本の高齢化率17.7%、韓国は6.7%となっている。この時点で、既に日本では14%以上の高齢化社会に突入しているのに対し、韓国では高齢化社会といわれる7%にも達していない。しかし、韓国でも2005年には7%以上の高齢化社会に突入する可能性があることが確認できる。

高齢者問題において最も重要な点として、バリアフリーに関する問題が取り上げられるが、現在の韓国では、国民性や宗教等の理由から、個々人の高齢者を敬う精神が養われていることや、高齢化率がそれほど高くないため、バリアフリー化が大きな社会問題となっていない。しかし、今後の高齢者の増加や、より多くの高齢者や障害者が社会に参加するためにも、韓国においてバリアフリーを推進していかなければならない。

そこで、今回、韓国釜山市においてバリアフリー化の現

状を把握するために現地調査を行った。

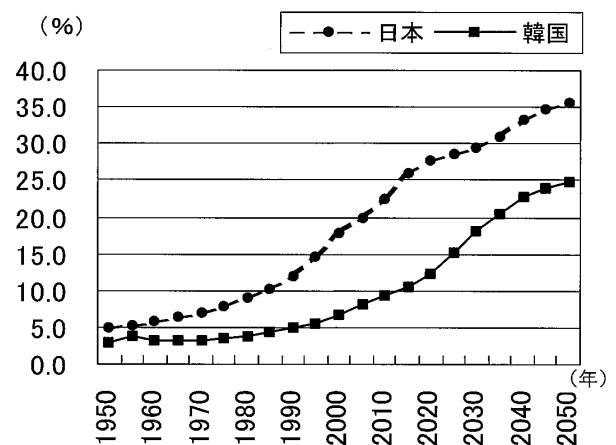


図1 韓国と日本の高齢化率の推移

韓国：UN「World Population Prospects : The 1998 Division」(medium Variant)

日本：2000までは総務省「国勢調査」、2005年以降は厚生労働省国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推定人口」(平成14年1月中位推計)

平成15年10月24日受理

*大学院生産科学研究科 (Graduate School of Science and Technology)

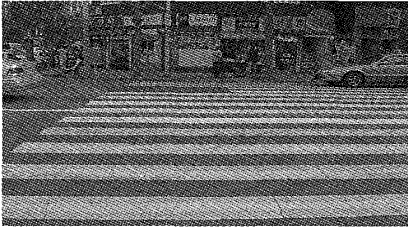


写真1 中央洞の横断歩道

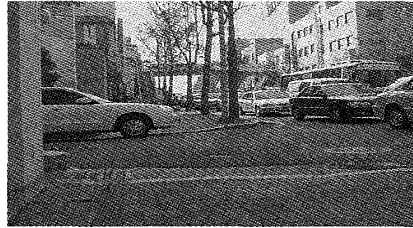


写真2 ブロック歩道

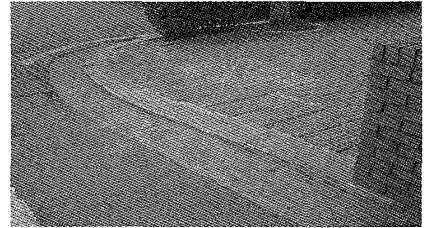


写真3 点状ブロック



写真4 市内バス停留所



写真5 乗車風景

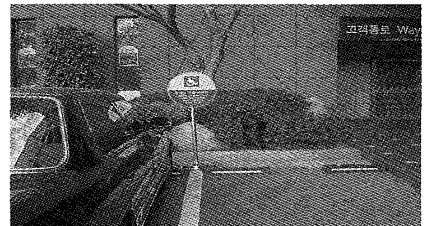


写真6 障害者用駐車場

2. 韓国釜山のバリアフリー調査

釜山は、首都ソウル市の南南東約450kmに位置し、人口約380万人でソウル市に次ぐ韓国第二の都市である。また、韓国最大の貿易港を有しており、地理的条件及び国内経済の急速な発展に支えられ、国際的にも有数な港湾都市の一つに数えられている。

バリアフリー調査は、釜山市内の地下鉄中央洞駅、釜山駅、沙上駅の3駅と釜山駅、市外バスターミナルで行った。

2. 1 中央洞付近、釜山駅付近歩道

① 横断歩道

写真1は、中央洞付近の幅の広い横断歩道であるが、歩道と車道の間には約5cmの段差が存在する。また、大きい樹木が歩道の十分な幅員や空間を保つ妨げとなっていた。

② ブロック歩道

写真2は、観光ホテル近くの歩道であるが、健常者でも気を配らなければならないほどの凸凹があるブロック歩道で、小さい十字路は一時停止線もなく、危険であった。

③ 点状ブロック

写真3は、点状ブロックを敷設している歩道であるが、横断する直前の部分だけであり、歩道全体には敷設され

ていなかった。この状況では視覚障害者にとって不十分であり、改善が望まれる。

④ 市内バス停留所

写真4は、釜山駅前の市内バス停留所である。屋根、ベンチ、電光掲示板での案内等設備の充実した停留所であるが、バスが停留所近くではなく、道路の中央に停車してしまい、乗客が停留所から2～3mくらい道路に出てバスに乗らなければならない状態であった。この状態では不便さと危険が伴い、改善すべきである(写真5)。

⑤ 障害者用駐車場

写真6は、障害者用駐車場のサインであるが、駐車スペースが狭く、右側には段差もあり、車椅子使用者が利用するには困難である。

⑥ 白山記念館前歩道

写真7は、白山記念館前の歩道であるが、道路側に急傾斜となっている。また、歩道上のベンチや街路樹、モニュメントの配置が通行の妨げとなっており、改善が求められる。

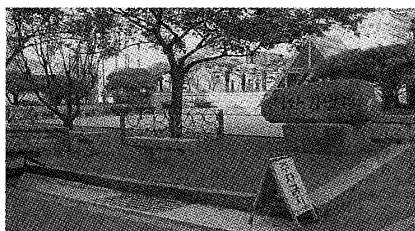


写真7 白山記念館前歩行道



写真8 中央洞駅出入口

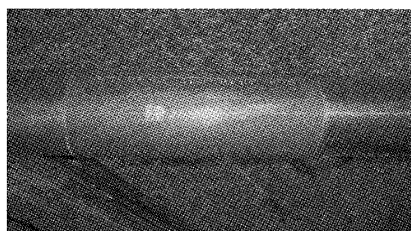


写真9 視覚障害者用点字サイン

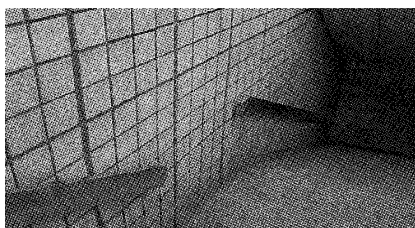


写真10 途切れた手すり



写真11 金属が剥き出しの手すり



写真12 沙上駅出入口

2. 2 地下鉄

① 中央洞駅出入口

写真8及び写真9は、中央洞駅の入り口で、手すりは両側に設けられており、それらには視覚障害者用の点字サインもある。しかし、階段には明度差のあるノンスリップが設けられておらず、目の不自由な人には不便である。

② 釜山駅出入口

写真10及び写真11は、釜山駅の入り口で、両側に手すりが設けられているものの、階段の途中で手すりが途切れており、金属が剥き出しで危険な箇所もある。

③ 沙上駅出入口

写真12は、沙上駅の入り口で、両側に高さの異なる手すりが設けられており、手すりの途切れもなく利用者への配慮がうかがえた。

④ 中央洞駅の車椅子利用者用リフト

写真13は、中央洞駅に設置されている車椅子利用者用リフトである。リフトの存在を示すサインは充実しているが、これを利用するためには係員を呼ぶ必要があり、当事者のみでの使用は無理であった。

⑤ 地下鉄のホーム

地下鉄のホームでは、車椅子利用者用出入口を示すサインがあり、点状ブロックも電車乗降口付近まで敷設されていた。また、乗客の乗降をスムーズに行うための矢印案内も設けられていた（写真14）。

⑥ 地下鉄車両内

地下鉄の車両内には、高齢者及び障害者等の指定席が設けられており、電車の発着案内も音声と電光掲示板で示されていた。しかし、車両内には吊革が多くお年寄りや子供にも使用しやすい握り棒は少なかった（写真15、写真16）。

⑦ 公衆電話

車椅子使用者や子供等に配慮して、公衆電話の高さを二通り設けている（写真17）。

2. 3 鉄道釜山駅、バスターミナル

① サイン

トイレや路線案内は非常に大きなサインで示されており、英語、日本語でも標記されているため誰でも見やすく配慮されている（写真18）。また、車椅子使用者のためのサインや目が不自由な人のための点状ブロックも設置されている（写真19）。写真20では、男子トイレと女子トイレのそれぞれに障害者用トイレが設けられていることがわかる。

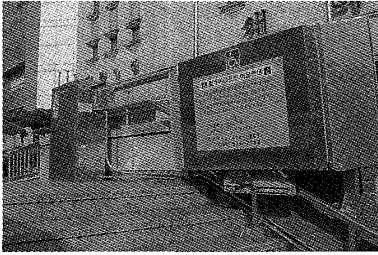


写真13 車椅子利用者用リフト

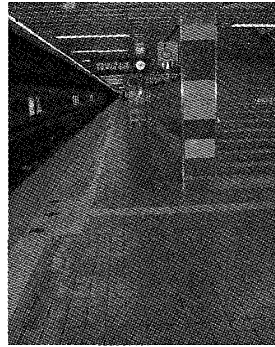


写真14 地下鉄のホーム



写真15 地下鉄車両内1

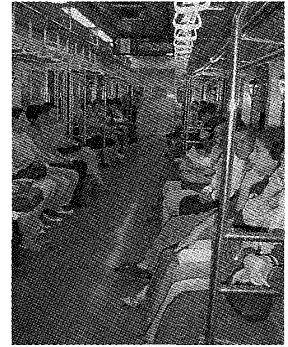


写真16 地下鉄車両内2

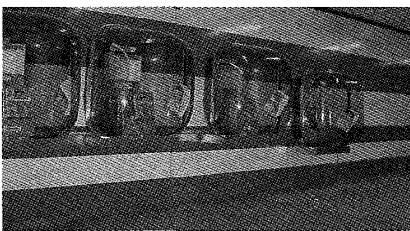


写真17 高さが違う公衆電話



写真18 路線案内のサイン



写真19 車椅子使用者案内のサイン



写真20 トイレのサイン

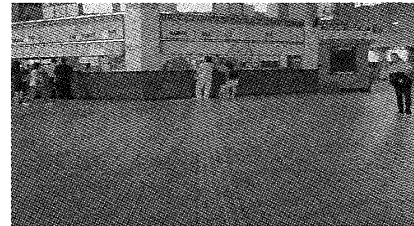


写真21 案内所までの点状ブロック

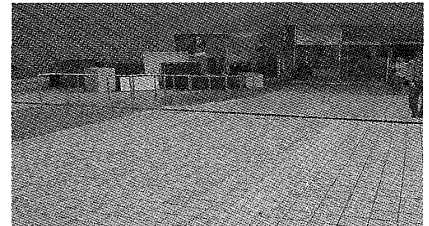


写真22 手すり付きスロープ

② 市外バスターミナル

写真21は、釜山市外への運行を行うバスターミナルであり、点状ブロックが出入り口から案内所まで設けられていることが確認できる。写真22には、緩やかな手すり付きのスロープが設備してあるが、粗大ゴミなどの障害物が通路の半分をふさいでいる。

3. 考察

今回の釜山におけるバリアフリー調査で、最も印象に残ったのはサインの充実で、特に日本のサインと比較して字が大きく、見やすい標記であった。著者も今回初めて釜山を訪れたが、道に迷うこともなくサインの重要性を改めて感じた。

一方、手すりに関しては、写真9に示すように視覚障害者用の点字標記がなされているものもあれば、写真11のように手すりが途中で途切れ、金属部分が剥き出しになっている手すりもあり、同じ地下鉄駅の階段であるにもかかわらず統一性がなかった。そのため、日本の各自治体が作成している福祉のまちづくり条例のようなマニュアルを設け、統一性を持たせるべきである。

韓国におけるバリアフリー化は、日本に比べるとまだ十分とはいえないが、図1に示すように、現在韓国の高齢化率は、日本の半分にも満たない状況であり、そのことを考えるとサインやスロープ、手すり、身体障害者用トイレ等の設備は比較的整っていたように思われる。

4. おわりに

今回は、釜山に赴き、実際に交通機関を利用することにより問題点の抽出を行った。その結果、ハード面では韓国のバリアフリーの現状を把握することができた。しかし、ソフト面については、露店や看板等が歩道を塞いでおり、視覚障害者の歩行の妨げとなっていた。今後は行政機関や市民へのヒアリングを行う予定である。

今後、高齢化率の急激な上昇が予想される韓国において、高齢者や障害者等が何の障害もなく、自由に社会参加を行っていく必要がある。